

## 平成 26 年度 学校経営計画及び学校評価

## 1 めざす学校像

「地域や関係機関との連携を深める中で、一人ひとりの児童・生徒の障がいや発達の状態に応じた、最も必要で適切な教育の創造」をめざす。支援学校として時代のニーズに対応した専門的機能を再構築し、教職員と児童・生徒及び保護者とのつながりを深めながら、次に掲げる事柄を中心とした教育の展開をめざす。

- (1) 健康の保持・増進に関する習慣や態度を育て、体力の向上に努める。
- (2) 情緒の安定を図り、素直で明るく誠実に生きる態度を養う。
- (3) 豊かな人間性と社会性を育て、自己実現の達成をめざす。
- (4) 共に生きる人間として尊重しあう態度を育てる。

## 2 中期的目標

- 1 「個別の教育支援計画」、「個別の指導計画」の内容の充実と、関係機関との連携による児童・生徒への支援
  - (1) 「個別の教育支援計画」、「個別の指導計画」の内容の充実を図る。
  - (2) 「個別の教育支援計画」、「個別の指導計画」をツールとして、校内支援の充実を図り、校外の関係機関とも連携をして児童・生徒へのより有効な支援をコーディネートする。
- 2 安全安心な学校づくり
  - (1) 自閉症児童・生徒への有効な支援や対応方を研究し、児童・生徒一人ひとりに必要で適切な支援の充実をめざす。
  - (2) 次の内容の充実・整備を行い、児童・生徒一人ひとりにとって安全安心な学校づくりをめざす。
    - ア 医療的ケアの体制の充実、ならびに肢体不自由のある児童・生徒への教育内容の充実
    - イ 大規模災害等災害時のマニュアルの更新・改訂
- 3 系統的なキャリア教育の推進、並びに、就労移行を支援する体制の充実
  - (1) 早期より系統的なキャリア教育を推進し、職業観、勤労観の育成をめざす。
  - (2) 関係機関と連携し、進路の実現及び就労移行を支援する体制の充実をめざす。
  - (3) 高等部生徒の減少に対応した取り組みの検討を進める。
- 4 専門性の向上、及び、若手教員の育成も含めた校内研修体制の充実
  - (1) 保護者及び地域のニーズに対応した専門性の向上をめざす。
  - (2) 知的障がい教育における学習内容や支援方法についての研究を行い、専門性の向上を図る。
  - (3) 大量採用時代の中、教員構成の変化に対応した校内研修体制を整備し、若手教員の育成を図る。

## 【学校教育自己診断の結果と分析・学校協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [平成 26 年 12 月実施分]	学校協議会からの意見
<p>◎保護者・教員に対して実施</p> <p><b>1保護者アンケート</b>について</p> <p>○回収率→65.03% (昨 57.8%) と昨年度比上昇。一昨年度までは行かず今後要分析。</p> <p>○評価について</p> <p>・Aよくあてはまる(×4点) Bややあてはまる(×3点) Cあまりあてはまらない(×2点) D全くあてはまらない(×1点) Eわからない(点数化なし)の合計を合計人数で割り、得点Pとし得点の比較を行なった。</p> <p>・全体では平均 3.41P (85.3%) で+0.02 とやや上昇した。</p> <p>・<b>ベスト項目</b>としては、</p> <p>「この学校の授業参観や学校行事に参加したことがある」3.72P (-0.07)、「学校は保護者が授業参観する機会を設けている」3.67P (-0.02)、「運動会や遠足・宿泊学習・修学旅行などの学校行事は、参加しやすいよう工夫されている。」3.66P (±0)、などがある。</p> <p>・<b>ワースト3</b>としては、</p> <p>「学校のホームページをよく見る」2.01P (+0.09)、「学校のホームページは分かりやすい」2.86P (+0.33)、「学校の施設設備は学習環境面で満足できる」2.87P (+0.15)、があげられる。</p> <p>○考察</p> <p>・保護者は全体として高評価をしている。</p> <p>・評価が高いものに関しては、参観、行事への参加、授業参観があがっており、学校と家庭との関わりについては高評価を得ている。</p> <p>・評価が低いものに関して</p> <p>「学校のホームページをよく見る」「学校のホームページは分かりやすい」と昨年同様HP関連があがっているが、情報発信に努めた結果、改善はしてきている。</p> <p>「学校の施設設備は学習環境面で満足できる」については、+0.15 の改善はあるが学校の敷地面積が狭く、まだまだ過密状態が続いていることから評価が低くなっている。</p> <p><b>2教員アンケート</b>について</p> <p>○回収率→87.04% (昨 77.3%) とさらに向上した。昨年度の反省が活かされた。</p> <p>○評価について</p> <p>・全体では平均 2.99P (74.6%) で+0.01P とほぼ昨年と同じであった。</p> <p>・<b>ベスト項目</b>としては、</p> <p>「児童生徒や保護者の参画のもと「個別の教育支援計画」を作成している」3.45P (+0.01)、「学校行事について、教職員で話し合い、工夫、改善、精選を行っている」3.35P (+0.04)、「学校は、児童・生徒や保護者の願いを踏まえ教育活動全般にわたって「個別の教育支援計画」を活用している」3.35P (+0.02) などがあげられる。</p> <p>・<b>ワースト項目</b>では、</p> <p>「施設設備は必要に応じて適切に整備されている」2.14P (+0.23)、「研修・研究に参加した成果を、他の教職員に伝える機会が設けられている」2.4P (-0.18)、「学校内で、他の教員の授業を見学する機会を設けている」2.41P (-0.03) があげられる。</p> <p>○考察</p> <p>・回収率は昨年よりさらに改善した。</p> <p>・個人情報紛失事案が起き、「個人情報の管理システム」関連が大きく低下した。</p> <p>・やや改善したとはいえ過密課題状況から、教員も施設設備についての評価が非常に低い。今後も教育委員会とも連携しながら工夫をしていく必要がある。</p> <p>・授業見学については、昨年同様教員は多くの時間授業に入っているため、研究授業においても依然参加が難しい状態が続いている。</p> <p>・研修・研究についてはその成果を全体共有することについて改善を図る必要がある。</p>	<p><b>第1回(6/6)</b></p> <p>○平成 26 年度学校経営計画について</p> <p>・生徒数の減少、複雑化、特化した取り組みをしている。学校に期待している。</p> <p>・福祉と教育の物理的、人的格差があるように思う。格差が縮まる取組が進んでくれればありがたい。</p> <p>・門真市在住の生徒が高等部から寝屋川支援学校へ行く。門真市の状況等ノウハウはうまく伝達されているのか。</p> <p>→寝屋川支援と連携して取り組んでいる。交野支援とも連携できている。</p> <p>・少子化に伴い、障がい種別を越えて集約できれば効果が上がるのではないかと。視覚・聴覚障がいなら整備すれば地域に行けるが、児童生徒の発達段階が大切のように思う。</p> <p>・本日学校を見学した印象は子どもが落ち着いて授業に参加し、押しなべて全体として子どもたちが落ち着いて授業に向かっている。授業づくりが機械的でなくうまく進んでいる。児童生徒にただ寄り添っているだけではうまくいかない所もあるが、どのような指導が何故うまくいっているのか興味がある。</p> <p><b>第2回(11/19)</b></p> <p>○学校経営計画進捗状況について</p> <p>・若手研修についてどのように取り組んでいるか。各部の交流は行っているのか。</p> <p>→授業をビデオに撮影し研修に活用。大学の先生に依頼しグループ討議を実施。交流は必要に応じて情報交換を行っている。</p> <p>・学校の取り組みについては、時代の変化に合わせて様々な変更を余儀なくされている。その中でよく頑張っておられる。今後ともよろしくお願ひしたい。</p> <p>・ハローワークとして、就労として守口支援学校と関わらせていただいている。守口市立の中学校と守口支援学校高等部との連携が大阪府下全部に広がったら良い。取り組みに期待したい。</p> <p>・研修をたくさんしていただいているが、PTAとしても来年に自閉症に関する映画の上映をしたいと考えている。先生方にも見ていただきたい。</p> <p>・保護者・生徒の声を聞きながら取り組みが進んでいる。地域との連携も密にされている。ICT、iPadの活用がどこでも進んでいる。必ず必要なことなので支援学校の生徒も慣れていくことが大切。同じく視覚支援カードも慣れて使えるようになることが大切。ICT教育については、メリットもあるがリスクもある。実体験をどれだけ積めるかも大切なことである。</p> <p>・細かく計画を立てられている。守口市の学校でも経験が少ない先生が増えている。インクルーシブ教育とユニバーサルデザイン等どうやって伝えていくかそのノウハウがない。ぜひ協力いただきたい。</p> <p><b>第3回(2/19)</b></p> <p>○学校経営計画の総括と今後の課題</p> <p>・(大規模災害時) 保護者と連絡がつかない時にどこに避難させるか? 第2・第3の避難所の記入も必要ではないか。連絡はなかなかつかない。交通網も遮断されている。キーステーションを決めておけば、そこから情報を発信できる。</p> <p>・進路部の報告でもあった就労からのアフターケアの支援に力を入れていく必要があるように思う。協力していきたい。(2年続きで1年以内の離職者が出ていることに関して)</p> <p>・高等部のBクラスは、1ヶ月でクラス分けを行っている。もう少し慎重に見極めていくほうがいいのではと思う。期間が短すぎるように思う。</p> <p>・高等部は守口市の生徒のみが在籍。進路指導のあり方も変わってきているように思う。中学部まで本校で寝屋川支援学校卒業生もいるので、本校の持っている、門真の情報を提供する方向で進めいただければありがたい。</p> <p>○学校教育自己診断について</p> <p>・学校教育自己診断アンケート結果が、細分化されたものでとても分かりやすかった。回収率も上がったことは感心している。</p> <p>・学校教育自己診断を丁寧に行われている。分析もきちりされている。手間ではあるがこれだけ丁寧であれば、このアンケート結果を元に、客観的に話しを進めることができるように思う。施設の充実化においても、数値で示すことでなんとなくわかってもらえるように思う。守口市でも参考にしていきたい。</p>

## 府立守口支援学校

## 3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 「個別の教育支援計画」、 「個別の指導計画」 の内容充実と、関係機関との連携	(1) 「個別の指導計画」の内容充実  (2) 「個別の教育支援計画」、「個別の指導計画」をツールとして、 ア 校内支援の充実をめざす イ 関係機関との連携の充実を図る	(1) 現在の「個別の指導計画」をさらに充実させ、目標や達成状況をより保護者にとって分かりやすいものへと工夫改善を行う。 (2) ア 関係各機関との情報交換を進め、校内支援の充実を図る。 イ 市別支援連絡会議、守口門真支援教育推進連携会議を開催し、また、各市開催の会議に参加し、関係機関との情報交換を図り、連携を進める。	(1) 学校教育自己診断における学習の評価や「個別の指導計画」に関するポイント評価 80%以上 (2) ア 校内支援ケース数 200回(ケース会議含む) イ・守口門真関係会議開催4回 ・各市関係機関会議等に参加30回以上	(1) 昨年度の反省を踏まえ各学部で「個別の指導計画」の整理並びに教員用作成マニュアルの改善を行い、作成の周知徹底を図った。また、管理職も含む各学部代表の情報交換会を実施し、内容や問題点など情報共有を行い、各学部とも昨年度より表記の仕方が整理され、分かりやすいものへと改善できた。学校教育自己診断における「個別の指導計画」に関する保護者評価→平均3.51P(87.7%) (◎) (2) ア 校内支援については、1月末時点で183件あり、200件を超える見込みである。(○) イ 守口門真市関係会議を4回開催した。(○) 各市関係機関会議に41回参加をしたほか、地域支援として巡回相談63回、研修講師46回、研修会参加5回、など合わせて計155件の支援・連携を図った。(2/9時点) 加えて進路関係で、市町村地域関係会議に延45回(1/9時点)参加。また、守口市教育委員会と連携し、地域の小中学校向け「支援教育研修会」を実施した。(◎)
2 安全安心な学校づくり	(1) 自閉症児童・生徒への有効な支援や対応方策の研究  (2) 医療的ケアの体制の充実、大規模災害等災害時のマニュアル整備 ア 医療的ケアの体制の充実 イ 大規模災害等災害時のマニュアルの整備	(1) ア 研究部・支援部による研修等を計画的に進め、自閉症児童・生徒への有効な支援や対応方策の研究を行う。 イ 環境整備を行い、新たに導入したICT機器を活用した支援方法の研究を進める。 (2) ア ・安心安全な医療的ケアの体制の継続ならびに医療的ケアマニュアルの検討を行う。 ・中学部における医療的ケア体制等の充実を図る。 イ・守口市や保護者とも情報交換を行い、新しい災害想定に合わせて大規模災害対応マニュアルの更新・改訂を行う。 ・各種災害における避難の方法について、関係機関と連携し改訂を行う。	(1) ア 校内実践交流会の研究冊子発信 イ ICT機器活用をすすめるため、マネジメント経費等を活用し環境整備を行う。 (2) ア 中学部教員の新たな認定証保有者の増員 イ・守口市や保護者から地域の情報や子どもの実態に合わせた意見をもらいマニュアルを改訂 ・自力避難が困難な児童・生徒の避難方法の改善	(1) ア 福祉医療関係人材(PT、OT、ST)と連携して巡回指導を実施し、指導を充実させることができた。また、年間を通じて研究した内容で2月に校内実践交流会を実施し、冊子は今後作成。(○) イ コカコーラウエスト(株)の社会貢献活動による情報教材支援並びに校長マネジメント経費を活用し、「①無線ルーターの増設による全教室での無線環境整備②単焦点プロジェクターの整備」を行い、ICT機器活用のための環境整備しICT機器を活用した授業の推進を行った。 学校教育自己診断(教職員)の「情報機器授業活用」の評価が3.14(78.5%)と高評価かつ、昨年比でも+0.17評価がアップした。(◎) (2) ア 事故防止のため、座席の校外持ち出しについて「医ケアの手引き」を再度確認した。また、医ケアの認定証保有者は8名増、うち中学部は7名新たに増えた。(○) イ 大規模災害対応マニュアルで、緊急時の引渡しに備えた「災害時緊急連絡カード」を作成し、保護者から回収した。(○)また、災害時対応の避難用担架、備蓄食品、発電機を充実させた。 校長がPTA役員とともに災害関係研修(府立支援学校PTA協議会研修)に参加し、情報交換を行った。(○) ※個人情報紛失等の事案が発生した。(△)二度と起こさないためにも学校をあげて様々な見直しを行い、個人情報の管理について徹底を図ったが、確実なシステム作りとともに、組織として、教職員が自ら不備に気づき、危険を察知し、ミスを防ぐことができる組織へとレベルアップをしていくことが今後の大きな課題である。 門真市に加えて新たに守口市に依頼し不審者情報を提供してもらい、保護者にも情報を提供して防犯意識の向上を図った。
3 系統的なキャリア教育の推進、 就労移行を支援する体制の充実	(2) 関係機関と連携し、進路の実現及び就労移行を支援する体制の充実をめざす。 ア 関係機関との連携を行う校内体制の確立 イ 地域連携の充実を図り、さらなる就労の可能性の拡大に努める。	(2) ア 高等部教員が減少する中、進路担当の次世代育成を図りつつ、従来通りの充実した関係機関との連携や就労への取り組みについて実施していく。 イ 「職業自立コース」在籍生徒の企業への就労を進める。 「生活自立コース」在籍生徒からも職場体験実習を経験する機会を設け、就労への可能性を探る。	(2) ア 新たな進路担当の育成  イ 「職業自立コース」在籍生徒5名全員の就労 「生活自立コース」2年在籍生徒の職場体験実習の継続	(2) ア 今年度新たに首席を進路副主事に指名。進路主事とともに一年間関係機関等と連携を図ることができた。(○) 高等部の生徒減少に対応し、キャリア教育も含めた教育課程についての見直しを高等部全教員の意見も踏まえ現在も検討中。 イ 「職業自立コース」在籍生徒5名については、例年以上にマッチングに努め4名が企業就労を実現。1名については総合的に判断してさらに就労訓練に取り組むこととした。(○) 「生活自立コース」2年在籍8名中2名が企業における体験実習を実施した。(○) さらに一歩踏み込み、職場定着支援をスムーズに進めるため、後期現場実習への就業・生活支援センターの巡回同行及びセンター内体験実習を試みた。 地域関係機関とさらに協同し、障がい者雇用の拡大及び職場定着率の向上に努めているが、2年連続1年以内の離職ケースが出ており、その他の継続雇用ケースも含め定着支援の対応にかなり労力を割いている。
4 校内研修体制の充実、 専門性の向上	(3) 校内研修体制を充実させ、若手教員の育成を図る。 ア 研究部・支援部の研修の充実 イ 専門性の向上	(3) ア 経験に応じた研修の機会を設定し、外部講師を招いたり、校内で優れた実践を行う教員の情報共有を行ったりすることで、研究部・支援部の研修を充実させる。 イ 他の都道府県も含めた優れた取り組みの発表や公的な研修に参加する教員を派遣し、専門性も含めた資質の向上を図るとともに、校内で情報共有を行い、学校全体の教育力を向上させる。	(3) ア・外部講師等による教員の資質向上の研修10回実施(経験に応じた研修の継続、充実) ・大学や他の支援学校等の教員の巡回相談の充実 イ 他の都道府県で開催される実践発表や公的な研修への参加5名	(3) ア 外部講師等を招いての教員の資質向上の研修は経験に応じた研修として実施し、大学や他の支援学校からの協力を得て11回実施した。特に事前の教員アンケートのニーズに基づき内容を充実させ、授業研究中心の若手研修も実施した。(○) イ 他の都道府県で開催された実践発表や研修には、東京、神奈川をはじめ、6名が参加。加えて病院における脳性まひ児童療育関係機関講習会にも1名が参加し、優れた実践や高度な支援内容を得ることができた。(○) 今後は全体への伝達や情報共有を行い、学校全体の教育力を向上させることが課題である。